

17年度版犯罪白書から その

法務総合研究所の調査

17年度版犯罪白書には特集として少年非行が取り上げられています。ここには、毎年度記載されている少年非行の動向などのデータのほかに、法務省の法務総合研究所が少年非行の質的分析を行うために実施した調査によるデータとそのコメントが載っています。その基となっている調査は、

平成17年2月14日から同年4月15日までの間に全国の少年鑑別所に観護措置で入所した男子2,552人・女子345人(平均年齢16.9歳)を対象にした「非行少年に対する意識調査」

平成17年2月14日から同年4月15日までの間に保護者会または面会のために少年院を初めて訪れた少年の保護者を対象にした「非行少年の保護者に対する意識調査」(回答が得られたのは、父親165人・母親321人とともに義父母を含んでいます)

平成17年度4月1日時点で勤務年数6年以上の少年院教育部門の法務教官の男性424人・女性122人を対象にした「少年院の法務教官に対する最近の非行少年に関する認識についての調査」

の3つの調査です。

この特集自体は諸外国の少年非行などにもふれておりA4版で224ページありますが、ここでは法務総合研究所の調査によるものの中から気になった点についてとりあげます。

非行少年の質的变化というが

少年院教官の63.5%が非行少年の抱えている問題の中身が変化すると認識しています。さらに、「最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる資質面の問題には、どのようなものがありますか」との問いに対する答えの多かったものから10項目見ると(複数回答あり)

人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける 62.3%

自分の感情をうまくコントロールできない 55.1%

忍耐力がなく、我慢ができない 55.1%

甘えの気持ちが強い 50.0%

自分の気持ちをうまく言葉で説明できない 37.4%

楽しいことだけを追い求める 30.4%

自分の問題に向き合おうとしない 27.5%

自分がどんな人間か、よくわかっていない 24.7%

話しかけても反応が鈍い、あるいは話の中身が伝わっているという感じがしない 23.3%

人の話を聞こうとしない 22.0%

でした。このデータをみると「最近の非行をする少年は...」と思いがちですが、ちょっと待ってください。ここにあげてきた項目のどれかに当てはまる人はあなたの周りにいませんか。これらの項目に当てはまる「大人」は職場や近所や友人・知人のなかにも、よくみると意外と多くいるのではないのでしょうか。子どもは社会を映すものだと言われますが、非行少年も子どもです。やはり今の社会を映し出しているのではないのでしょうか。

私には上に挙げられた項目に当てはまる大人は最近多いように感じられます。たとえば、児童クラブ(学童保育)で保護者対応をするとき対応の困難さを感じさせる保護者がかなり多くいます。その人たちは上の項目にほとんど当てはまります。ベテランの職員に尋ねるとそのような保護者は以前より多くなっているということです。保育園の保育士さんからも同様の声を聞きます。変化しているのは非行少年だけでなく大人たちもかな?

上述の調査で注意しなければならないのは、少年院の教官が感じる最近の非行少年の資質面の問題が、必ずしも最近の非行少年「だけ」の特徴ではないということです。非行少年と認知されていない少年(一般の少年)と比べてどうなのか、または、大人と子どもで比べてどうなのかといったことも調べなければ、いわゆる「非行少年像」のような捉え方は不適切です。社会全体の問題として捉えなければならない問題であるならば、子どもだけをいじったって効果は?ですよね。データの見方にはご注意を。

亀山憲一 [会員・フリーで活動中の法学研究者
(犯罪学・刑事法)]